

最近、実際に体験したことから。

インターネットを多用するようになったので、二ヶ月前に自宅のNTT電話回線をISDNに切り替えました。その際、7000円ほどの『技術料』と共に、800円の『契約料』を徴収されました。

たまたまそれから数週間の後、自宅周辺にケーブルテレビが引かれることになり、インターネットの回線のためにこれを導入しました。そこで電話用のNTT回線はISDNである必要がなくなったので、以前のアナログ回線に戻していただくようNTTにお願いしました。

NTTの話では、切り替えのための(技術的)費用としての2000円と、『契約料』800円が必要だとのことでした。ちょっと疑問に思えたので、当方が数十年前に電話を設置した際に結んだNTTとの『契約』は前回の切り替えの時に切れたのか、今回はどんな『契約』になるのかと尋ねたところ、契約はそのまま切れていないが別のサービスになるので手続きが必要であったこと、今回も同じとのことでした。

とすると『契約料』はおかしい、念のためにどんな契約になるのか契約書を送って欲しいとお願いしたところ、そういうものはないとのこと。更に、名前はともかく、『契約料』ということで皆さんから頂いていると、当方がわからずやであるかのような口ぶりになりました。それがなぜ『契約料』なのか当方を納得させようと言う気持ちというか、構えはまったく感じられませんでした。

ここでハタと日米通信摩擦、NTTの独占的接続料が高いとか言う米国からのクレームを連想しました。これまでは米国の横車に負けるなど何となく思っていたのですが、どうも世界の常識では通らない料金設定をしておいて、しかもこちらの考え方を相手に納得させようと言う努力もしない、いやならやめろというような姿勢が『摩擦』の理由の一つではないかと思えたのです。

国内の消費者の利益を守り、理解を得てこそ、外国の不当な圧力に対抗するNTTの努力も支持されるものなのでしょう。最近の体験から言うと、外圧でこそ我々の利益が守られるのかなと考えさせられます。国民が『外圧頑張れ』などと悲鳴をあげないですむよう、まず内部の意識改革を進めるよう、求めます。

.....

饗庭孝典